

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900769
法人名	有限会社 ケアサポートいずみ
事業所名	グループホームいずみ
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字永野市9番地1
自己評価作成日	平成27年10月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年10月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者様の日々の暮らしぶりや心身の状態を1カ月毎にご家族様に便りにて報告している。月々の行事・レクリエーションの充実を図っている。</p> <p>「ふいの楽しみ方」を年間目標とし、その日の天候や入居者様の希望にて外出し楽しみを見出している。季節の野菜を入居者様と植え、収穫した野菜を食卓にて提供している。また 季節の花を絶やさないう年間通じて草花が楽しめる環境を作っている。</p> <p>運営推進会議において、入居者様が委員会の状況を把握できる場所設定を行い、入居者参加型の会議を開催している。</p>
---

<p>皇帝ダリアに深い思いがある方がおり、職員は利用者宅の庭で株を分けてもらい、ご本人から助言を受けながら事業所の畑で育てている。</p> <p>調理担当者を2名配置しており、居間と続きの間の台所で交代で食事を作っている。自家菜園やご家族、近所からのいただきものもあり、旬の食材をふんだんに使って食事を作っており、だしもこだわっている。職員も一緒に食事しながら「これすごくおいしいよ食べてみて」と促し支援しており、利用者の食べ残しはほとんどない。食欲が低下しているような折にもじっくりと時間を掛けて介助しており、そのような取り組みが体調の回復につながっている。利用者の中にはエプロンを着け、食後に洗い物をする方が見られた。</p> <p>入浴を断る方の中には犬が好きな方があり、代表者が犬を連れて来て、犬と一緒に風呂にまで行かれるようだ。入浴する間隔が長くなるような場合は、ご家族に協力をお願いして支援してもらいたいようなこともある。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームいずみ

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

小松 洋子

評価完了日

平成27年10月15日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) ホームの理念である笑顔・信頼・自由を共有し、安心して暮らせる環境作りを実践している。</p> <p>(外部評価) 理念は、朝の申し送りや毎月のミーティング時に、管理者が職員に「笑顔でケアできていますか？」等と問いかけて実践できているか確認をしている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 毎月年間行事の遂行及び地域交流行事への参加を行っている。特に鬼北町内の敬老会・文化祭・でちこんか祭り・秋祭り等には毎年出掛けている。また保育園や併設施設ほのぼのとの連携によって、訪問や招待活動を行い活動している。そして、2ヶ月に1回ボランティアによる「読み聞かせ」の時間を設け、読み語りと交流を持っている。</p> <p>(外部評価) 詩吟やフラダンス等のボランティアの受け入れや地域行事への参加を通じて交流している。散歩途中や近くの道の駅等に出かけた際には、知人に声をかけてもらうようなこともよくある。</p>	<p>利用者の知人に会う機会はあるが、その後も利用者とのつながりを持てるような取り組みにも工夫してほしい。人によっては事業所のことを病院のように思っているような方もあるようだ。地域の方達にとっての事業所のイメージを聞き取り、利用者の生活の場所として親しみを持ってもらえるよう、取り組みを工夫してほしい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 入居者家族及びホーム近隣及び消防団員等に対して、認知症状及び対応方法について機会ある毎に伝えている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	2か月に1度、ご家族・行政・医療保健・福祉・地域の方々を交え、意見交換や評価をもとにサービス向上に活かしている。	
			(外部評価)		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	運営推進会議には、行政の方々には必ず出席して頂き、介護保険制度の現状及び鬼北町の介護に係る情報の提供を頂いている。	
			(外部評価)		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	帰宅願望の利用者様においては、ドアブザー等の対策を行った上で更に安全を第一に考え家族の同意を得た上で、玄関施錠を行っている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  虐待防止について、併設施設にて合同研修を行い、虐待の意味の相互理解をしている。施設ごとに事例検討を行い、ストレスにならない支援策を検討し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  現在制度を利用する入居者様はいない。権利擁護については、外部研修を管理者が受講しスタッフへ周知している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  入所前に本人及び家族との面接を行う。また必要時応じて、自宅訪問を行い、入所者の人的・物的・社会的環境を把握する。そして、契約書・重要事項説明書を行い同意を得る。また契約書・重要事項説明書に改定が生じた場合は、文書及び口頭説明にて合意を得るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  現在 ご家族の面会や電話連絡等が増え、管理者及びスタッフに対して、様々な意見や要望等を聴くことができている。また月毎に入居者状況報及び日々暮らしぶりの記録を写真に残し新聞便り等にて紹介している。人によっては、毎回 新聞便りを見られた後、電話連絡があり感想を述べて頂いている。  (外部評価)  職員の入れ替わりが少なく、ご家族は、職員と顔馴染みになっており、「利用者のことをよく知ってくれている人なので安心する」と言われるようだ。事業所では、ご家族と利用者の楽しい思い出ができるよう年2回、春の小旅行、秋のいもたきを家族会として企画している。遠方に住むご家族の中には、管理者がSNSを使って写真や様子を報告し、やり取りしているケースもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティング及び日々の申し送り時ミニカンファレンスにて、意見や提案を傾聴する機会を設け、その都度具体策を充実させ実践している。代表者及び管理者は、様々な意見・提案については、安全策を講じながら「まずは取り組みから」という思いを大切にしている。	
			(外部評価) 職員間のチームワークがよく、支援に難しさがある利用者のケアは、職員同士で連携している。利用者個々に担当職員を配置しており、それぞれがケアの工夫等を提案して取り組みをすすめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務の組み方において、夜勤後は、月2回は2日の休日が取れる配慮を行っている。また休日希望はほぼ了解している。そして常勤・非常勤に関わらず、自己都合による2日以上以上の休日についても内容を把握し了解後、勤務表に繁忙している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の心身の状態の変化を確認し、相談・指導を行っている。また、職員の身体面を考慮しながら、働きやすい環境を提供している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 鬼北圏内における保健医療福祉業者が交流する地域ケア会議に出席をしている。しかし、行政に対して地域密着型のサービス事業者が集う場を働きかけて欲しいという要望を出しているが、開催には至っていない。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に管理者・ケアマネジャーが、施設内及び自宅訪問を行い、本人・家族より、困り事や要望を傾聴し、できるだけ安心して入所ができる体制作りにも努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前 本人とは別の場を設け、ご家族様の困り事や不安感、及び今後の要望について傾聴し、早期に信頼関係が構築できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族様或いは、施設・病院職員より、入所前のアセスメントを行い、現状の困り事やこれからの生活に対する不安・要望等を傾聴し、グループホームにおける生活が可能か否か見極めを行っている。また当施設以外の暮らしの可能性を多角的に検討し、情報を提供する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) その人にできる役割提供を行い、共に助け合いながら生活していく関係性を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様に対し、日々の面会や電話連絡にて入居者様の状況や種々の連絡事項等を伝えている。また心身の変容における状態については、対策を提案し互いに相互協力を行いながら、より良い暮らしとなるように導いている。「家族の存在」がいつも身近に感じられるよう支援に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブ・散歩・買い物・地域の催し等に出掛けると、家族や親戚・知人に出逢う機会が多く、その場で立ち話をする事等時間を自由に使い関係性を大切にしている。できるだけ普通の暮らしぶりが展開できる支援を行っている。 (外部評価) これまで利用していた美容室に行くことが難しくなると、美容室の方が事業所に来て利用者をカットしてくれる。地元の人が集まるイベントや道の駅等には積極的に出かけて、利用者が知り合いと会えるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 2名の方を除き、リビングにて過ごす事が常である。一人ひとりの個性に合わせて孤立しない空間を提供している。居室ベッドにて、終日過ごしている入居者様においては、午前・午後のおやつ時に全員リビングにて入居者様同士の関わりを持てるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所や長期入院等で契約が終了した後日、時々様子伺いに出向いている。また、長期入院においても様子を伺い、相談支援に努めている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしにおいて、日々思いを傾聴しながら、その思いに沿っての支援に努めている。現在、帰宅願望が強く無断外出がある入居者に付き添い、近隣を散策し本人の希望に寄り添っている。食・楽しみ・役割についての思いをその場で伝えることは可能である場面があり、場面場面で思いが到達できるよう支援している。 (外部評価) センター方式のアセスメント様式を使用しており、年1回とり直ししている。意向表出が難しいような方は、ご家族から聞くようにしている。利用者からの要望等は、日々の申し送り等で共有している。	さらに、利用者がその人らしく暮らし続けられるよう、個々の以前の暮らしぶりや現在の暮らしの希望、今後のことについての情報を集めて支援に活かしてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 1年に1回認知症センター方式を活用し、生活全般における心身の変容及び暮らしの状況把握を行い、認知力・活動能力等1年毎の変化を確認し支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者様 ひとり一人のその人らしさを理解し、認知の進行に随意した生活の有り様・現状把握を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 入居者様一人ひとりの担当者を決め、責任を持ってケアの充実を全スタッフに要請し、適宜心身の変化に基づきケアの修正を検討している。月1回のミーティングにて、全スタッフと共に協議し決定する。尚、本人・家族に対し必要なケアについて成り行きを説明し、合意を得る。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、毎月担当職員がモニタリングしてカンファレンスを持ち、3ヶ月ごとの見直しにつなげている。</p>	<p>ご家族は「任せます」と言われることが多いようだが、ご家族は利用者の暮らしをともに支えるケアパートナーでもあり、一緒に取り組めるような計画作成にも工夫してほしい。利用者、いろいろな人や場所をつなげていくような計画にも工夫してみてください。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の気分や行動変化を申し送りの際、スタッフ間で共有する。その場でミニカンファレンスを行い必要なケアについて検討し、同日から実践できるようにしている。確実にケアの継続が実践できるようにカードックス、スタッフ申し送り簿を活用し過不足がない状態を提供している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) それぞれ入居者玉本人・家族の有り様を知り得て、その人に即した関わりを行っている。特に最近にあっては、統合失調症の入居者様の精神的興奮の鎮静化の為、併設施設の利用を行う等している。一人ひとりの生活の支えとなる為、既存のケアに捉われないことなぐ発展的・柔軟な対応に努めている。また 他施設・事業所等からのレクリエーション案内等にあっては、必ず参加できる状況を作り交流が途絶えないよう努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域・近郊の行事や教育施設・保育施設等のイベント情報をリサーチし、できるだけ多くの入居者様が楽しめる場の提供を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・ご家族様の意向に沿った医療機関に通院している。また臨時受診が多い状況にあるが、それぞれご家族様の身体的・社会的側面から通院介助が困難になっている場合には、代行を行っている。また状態変化があった場合、文書にて情報提供を行うことが多くなっている	
			(外部評価) 看護職員は定期通院や薬の管理等を担当している。医師と相談し薬を調整して、以前は居室で過ごす時間が長かった方が、ご自分から居間に出て来られるようになったケースがある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師2名職務についている。日常的に心身の正常な状態を知り、異常を察知できるようフィジカルアセスメントについて伝えている。また異常を確認した場合には、看護師に報告を行い処置及び通院等の判断し医療連携を行っている。日常の処置については、文書及び方法を伝え周知している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時、口頭による日常の状況等について報告している。また療養中 病院訪問を行い治療・病状確認を担当医及び看護師より情報提供を受けている。また退院前には、退院時カンファレンスを家族と共に参加し、退院後の療養ケアに役立てている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人様がどこで終末期を迎えることが良いのか、担当医・家族・管理者と協力体制を密に行っている。スタッフの意見交換を何度も行い、思いを一つに看取りを家族と共に行える準備を整えていたが、家族・管理者と共に再度カンファレンスを行い療養型へ移ることとなる状態観察も行っている。	
			(外部評価) 2年前に看取りを支援したケースがあったが、その後はない。ご家族は「最期は病院で」と希望する方が多いようだ。看取りについては、協力医療機関等の勉強会に参加して勉強をしている。終末期支援については、利用者の希望を探ったり、又、ご家族と一緒に勉強したり、思い等を聞くような機会を作ってはどうか。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全てのスタッフにおいて、救急蘇生法及び外傷・骨折等の救急手当及び事故発生時の初期対応について研修を行っている。ヒアリング等の詳細な事故についてもカンファレンスを利用し、対策を講じ危機感を持って業務に従事している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) H27年4月15日消防署立会のもと、夜間を設定し地震災害訓練。5月20日大雨洪水警報時に備えた風水害避難訓練を実施。10月21日消防署立会にて、自然災害に伴う火災・地震による救援活動を予定している。 (外部評価) 運営推進会議に消防団分団長が参加しており、事業所内を見てもらい、又、利用者の状況を知ってもらい、他団員に周知してもらっている。災害時、すぐに持ち出せるよう利用者の薬4日分をまとめており、毛布等も用意している。現在は、年2回避難訓練を行っているが、繰り返し訓練を行うことの大切さを感じ、毎月行うことを考えている。又、地域の自主防災訓練へ利用者とともに参加することも計画していた。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様一人ひとりの人格を尊重し、視線を合わせた言葉掛けや、態度に気を付けている。また、入居者様の居室前に場札を掲示し、入居者様と他者とに分かるようにしている。排泄介助においても、自尊心が損なわない声かけ・介護手順を心がけ、一人の空間を大切にされた対応をしている。 (外部評価) 皇帝ダリアに深い思いがある方がおり、職員は利用者宅の庭で株を分けてもらい、ご本人から助言を受けながら事業所の畑で育てている。ひとりで出かけて行く利用者に職員が付き添う際、職員に「危ないよ気を付けて」と気遣いをしてくれるようだ。職員や来客者にプレゼントするために折鶴を折ったり、塗り絵をする方がおり、職員はもらった時にはお礼を言っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者様が出来ることは、見守りまたは一緒に行うことで達成感が持てるよう関わっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者様の声を大切にし、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2ヶ月に1回、美容師の来訪を受けカットを行っている。また起床時、パジャマから日常着に着替える、または外出時、自ら着替えを場所に即した装いを行う等や共に衣類の選択を行っている。入居者様によっては、化粧品や爪のおしゃれも、希望に応じて支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は、軟飯軟菜・キザミ食・ペースト食と、一人ひとりの嚥下状態に合わせて提供している。 おやつ作りもスタッフと一緒にやる事もある。 食器の後片付けについては、出来る人がキッチンへ運び行っている。	
			(外部評価) 調理担当者を2名配置しており、居間と続きの間の台所で交代で食事を作っている。自家菜園やご家族、近所からのいただきものもあり、旬の食材をふんだんに使って食事を作っており、だしもこだわっている。職員も一緒に食事しながら「これすごくおいしいよ食べてみて」と促し支援しており、利用者の食べ残しはほとんどない。食欲が低下しているような折にもじっくりと時間を掛けて介助しており、そのような取り組みが体調の回復につながっている。利用者の中にはエプロンを着け、食後に洗い物をする方が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々人の嚥下能力・食事实行機能等を勘案しながら、食事形態・量・温度を考慮し食事を提供している。また1日の水分量の不足がないように、一定のコップを使用し確実に1日の水分量が充足される状況を作っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの自立者は2名のみである。1日3回の歯磨き動作について、全てスタッフが声掛け・介助しケアしている。現在7名義歯(全部分)である。また歯科受診の必要な入居者については、歯科訪問診療を依頼している。義歯については、夕食後洗浄し保管している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) フローシートを活用し、一人ひとりの排泄状態が日々直に確認できるようにしている。緩下剤の調整、トイレ誘導の頻度調整、リハビリパンツ・尿取りパットの種類の選択、着用衣類の選択、トイレの環境作り等、一人ひとりが自己能力を十分に発揮し心地良い排泄ができるよう支援している。	
			(外部評価) 自尊心が高い方には、トイレ使用時に、職員がドアの隙間からご本人にわからないよう、そっとパッドを入れておき、ご自分で交換できるよう支援している。便秘がちな方には気長にトイレに座ることを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘になり得る成り行きを確認し、便秘予防策を講じている。現在緩下剤の種類の選択・水分補給・腹部マッサージ・運動等おこなっている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の予定としているが、希望によって入浴できる。現在車椅子使用者が多くなり、浴室の改装を行い湯船に入ることができるようにしている。またプライバシーの確保およびスタッフが一人ひとりとゆっくり関わられるよう、一人の空間を大切にしている。認知症の進行・運動機能低下によって、見守りから全介助の支援を行っている。現在 見守りのみにて入浴できる人は、1名である。	
			(外部評価) 入浴を断る方の中には犬が好きの方がおり、代表者が犬を連れて来て、犬と一緒に風呂にまで行かれるようだ。入浴する間隔が長くなるような場合は、ご家族に協力をお願いして支援してもらうようなこともある。入浴が嫌という方でも、入浴後は「ありがとう気持ちよかった」と言われるようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々人の睡眠形態に合わせ、入眠導入を行っている。また疾患によっては、日中AM・PM1～1.5時間ベッド・ソファにて休息時間を設け、循環動態の改善を図っている。	
			(外部評価)	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服のミスがないように、各自専用の薬箱及び日々の薬ケースを使用し管理している。また薬の変更等があった場合は、その都度文書・口頭及び薬カレンダーに記載し申し送りを行っている。また日勤者と夜勤者が、名前と薬時間との確認を行っている。そして内服に関しては、必ず手渡し或いは、口に含む支援を行っている。尚薬の拒否が一定期間ある場合は、主治医と相談し錠剤を粉末にする等の対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人ができること・したいことを把握し、役割を提供することによって充足感が持てる環境作りを行っている。個々人の生活歴及び認知の進行に合わせて、一人で楽しむこと・合同で楽しむこと、の機会を作っている。塗り絵・貼り絵・カラオケ・ボール遊び・散歩等 それぞれの希望に沿い実践している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望によって、買い物・散歩・ドライブ・お宅訪問を行っている。また地域の行事には、積極的に参加している。季節や個人差はあるが、現在週2～3回程度の外出を行っている。このことにより、近隣の人達や親戚関係と遭遇することも楽しみの一つとなっている。 また、帰宅願望のある利用者に対しては、その都度散歩に出掛ける配慮を行っている。 (外部評価) 職員が買い物に行く際に一緒に行き、品物を選んでくれるようなこともある。ドライブがてら町内・外の道の駅や名所巡りをしたり、系列小規模多機能事業所に出かけて合同で催し物やカラオケを楽しむようなこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人のお小遣いについては、家族の希望によりホーム預かりとしている。買い物希望については、希望があったその日に出掛けるようにしている。お金の所持にて、レジで応対ができる入居者は1名のみである。他の買い物については、代行を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望やホームから電話の誘いをする事によって交流が継続している。便りについては、入居者様に便りを書くよう伝えることもあるが、認知症状の進行により難しい状態にある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 施設内にその季節毎の飾りつけやゆったりとした空間を作っている。またリビングフロアは、ソファ2台・車椅子数台が和めるような工夫をしている。	
			(外部評価) 利用者の中には掃きそうじ等、職員と一緒にいる方もいる。居間と台所が一体になっており、テーブルをつなげて使用し、それぞれに座席が決まっている。テレビの前にソファや椅子を配置しており、食後には座ってゆっくりしている方もみられた。窓からの自然光で明るく、窓からは目の前に電車の往来が見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング ソファに1人ひとりが、自己の定位置を確保している。思い思いにテレビを観ながら横臥、塗り絵、箱折、新聞折り、折り紙をする等行っている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人・ご家族様の意向に沿った室内環境の整備を行っている。自分の居室が理解できるように、大きなネームプレート掲げ、入室しやすい配慮をしている。	
			(外部評価) 壁面にお孫さんやご家族の写真を飾っている方がいる。部屋間違いをする方がいるため、間違っても入りそうな部屋には、各部屋の方の名前を大きく書いて貼っている。仏壇を持ち込んでいる方は、ご家族がお供えものを用意している。調査訪問時、昼食後に横になる方には、職員がカーテンを引いてゆっくり休めるような雰囲気を作っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ベッド環境・トイレ環境を整え、できるだけ運動機能が発揮できる工夫を行っている。また施設内の表示は大きくし確認できる状況を提供している。少しでも「できる」「わかる」ことの助けができるよう工夫している。緩徐に関わることによって、多角的に自立の一步が見出せるよう支援している。	
			(外部評価)	